

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

2015年1月2日(金)



から新春開館!



ことしもよろしくね!



2014年最後の「館だより」ですが、一足お先に、新年は1月2日から開館する博物館正月情報とお正月気分のもーん父さんをお届けいたします。

新年恒例、新年開館初日から4日(日)まで、チケットご購入のお客様全員にラッキーくじをご用意。小学生以下のお子様には、大人にとっては懐かしく子供にとっては新しい!? コマやお手玉、ベーゴマ etc. “お正月ならではの玩具”をプレゼント! 数に限りがありますので景品がなくなり次第終了です。そんな子供たちを横目にする大人の方には、新年からめでたい「純金箔入梅茶」をプレゼント。この梅茶でお家に帰った安らぎのひとつをお楽しみください。

そして砂金採り体験室では、「古銭GETで金銀たまごくじ」が再登場! 体験時間中に、砂の中から古銭をGETした方は、たまごの中に入っている景品がもらえるくじ引きチャンス! いずれもお正月だけの特典です。

また、博物館売店では金箔もーん父さんや金蒔絵ボールペンの他、気になる新商品も! もーん父さんも多くのお客様のご来館をお待ちしております!

峡南5町の魅力は教育旅行 京浜・東海・中京地域の玄関口意識を！

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口一夫

山梨県（甲斐国）の峡南は戦国～江戸期には河内領と呼ばれた。地図では静岡県（駿河国）に突き出た形で窺え、歴史的には河内路、富士川水運で、また現在では国道52号、JR身延線、また数年以内には中部横断自動車道が新東名に繋がるなど、山梨県は、いわば京浜、東海、中京地域（経済人口は巨大）そこに面する本県南の玄関口となる。

現状、峡南は国中志向が強く、南部町を除き「表」玄関口の意識に乏しいが、中部横断道開通で峡南の可能性は格段に高まると思う。これを踏まえ峡南5町（南部町・身延町・早川町・富士川町・市川三郷町）は、それぞれ町の個性である地域・観光・教育資源を活かした新たなスタンスで、京浜、東海、中京地域に臨む必要がある。

この一年、天候不順が年間通じ土日の週末に多発するケースに加えて、消費税8%の駆け込み需要後の低迷で、最近の観光客の動態にはマイナスの変化が見られる。活性化しているのは世界文化遺産登録後の富士山や富士五湖周辺だが、県下他市町村には大きく波及した形跡は見られない。

かつて「観光の形は明らかに変化している」とJTB常務・清水慎一氏（当時）は語ったが、地域資源を活用した観光の推進、情報の発信について講演された際のヒントを思い起こした。

「富士山」という切り口の観光客にとって富士山以外は興味がない。これらの観光客に期待を持つことは難題だ。つまり、旅行者に対しては

多様なニーズに応えられる素材が必要で、例えば富士山というスケールメリットに勝つには、富士山に対峙する南アルプス・ユネスコエコパークが挙げられる。峡南ではヨーロッパアルプスの観光地に見られるような景観を背景とした裾野観光に、+αの温泉地、果樹など、更には地域固有の地歴（フォッサマグナなど）や歴史探索（金山遺跡、金山博物館、手漉き和紙+印章）の合体型で「教育・学習」プランを構築、合わせて「地元の食」や「暮らし」に密着できる…温もりを感じてもらえる観光地への衣替えが必要である。

また、海外や国内で「まち歩き」が主流で、「まち歩き（峡南では寺社めぐりも魅力的）・素朴な農産地（大塚人参や曙大豆など）の暮らし」に触れられる演出を本物志向で組み立て、その中で「地元の食」に触れてもらうことが、つまり「本物を体感・体験し学ぶ要素」に繋がると思う。

峡南5町のHPを検索すると、学べる地域資源が各町に沢山あることが分かる。口頭による「地域内の横断的な連携によって…」ではなく、より具体的な、学べる（教育的効果）素材を明確に整理し、時には行政の枠を越えた、確実に実行可能なプランを組み立て、積極的にアクションを起こし、旅行会社へ直接売り込む努力も必要だ。

旅行会社もこれまでない新しい素材・資源（特に教育旅行）を求め、マンネリ化から抜け出す努力をしており、その為、地域からの情報は歓迎傾向にある。峡南5町は横断道開通を見据え、より経済人口の多い京浜・東海・中京地域への繋がりを強化すべきだと思う。



峡南には大自然と教育資源が豊富（左(南アルプス邑野鳥公園)・中央(本栖湖)・右(大柳川渓谷)）

ゆるきゃらグランプリ2014 inあいちセントレアで 「もーん父さん」堂々の415位／1,699位!

11月1日(土)～3日(月・祝)

「ゆるキャラグランプリ」とは、いわば着ぐるみの祭典。7月に3次元デビューしたもーん父さんの、大々的PRのために、あいちセントレアまで行ってきました。

会場に向く前までは555位近辺だったのですが、最終結果ではかなり順位を上げ、**1,699位中415位、獲得投票数2,523票**と、大健闘いたしました。投票期間中、毎日投票して下さった皆様、ありがとうございました。

ちなみに今年のグランプリはマスコミでも多々報道されましたが、ご存じ群馬県の「ぐんまちゃん!」もーん父さんは奇しくもぐんまちゃんの隣ブースだったのですが。

3日間、雨の日も風の日も晴れの日も、たくさんの人に記念撮影を頼まれ、本当に大忙しで頑張ったもーん父さんだったのです。天気には愛想を尽かされた感がありましたが、お客さんには愛想尽かされず、みんなが喜んでくれました。喜んでくれる人がいるので、楽しく頑張ることが出来ました。

今回のイベント来場者数は公表70,621人。内訳は11月1日(土) 12,692名、2日(日) 24,479名、3日(月) 33,450名。初日と2日目雨が雨の影響により来場者数減となりましたが、晴天であれば倍以上の来場者数があったのではないかと思います。その怒濤の3日間をダイジェストでご報告いたします。

【1日目】 深夜博物館出発。早朝会場に到着するも既に雨は激しく、準備もままならない程。結局、雨は止むことなく終日激しく降り続けた。その影響で、午前中のパレードが中止になるなど様々な変更が余儀なくされた。PRにもお客様にも優しくない一日となった。

そんな中、同じテントで隣同士だった、山梨県都留市の「つるピー」とスタッフの皆さん。悪天候の中助け合い、遠く山梨から離れた地で出会った同郷人という絆が強まり、3日間気持ちよくPR活動を共に。都留市ブースの皆さん、ありがとうございました。

【2日目】 一夜明けた2日目はどんより曇り。しかし前日の雨で会場のコンディションは最悪。この日も靴合羽を

着用。この日は、おもてなしキッズとゆるきゃら2人一組で行進する“キッズパレード”に、もーん父さんも出場。もーん父さんのおもてなしキッズは、愛知県在住の「ゆあちゃん」という小学2年生の笑顔の素敵な女の子。

グランプリ前、実は、スタッフみんな「そうは言っても知らないキャラクターと歩いても嬉しくないんじゃないだろうか」と不安を抱くも、ゆあちゃんは、パレードの待機時間が30分程もあったのに、ずーっともーん父さんの手を強くぎゅっと握っていて、満面の笑顔で一緒に待っていてくれました。お母さんが言うには「本当に本当に今日を楽しみにしていた」と。本番は楽しく二人で元気に行進。パレード終了して間もなく、再び昨日と同じような激しい雨に。パレードが中止になってゆあちゃんの笑顔が消える、というようなことにならなくて良かったと心から思ったのです。

【3日目】 最終日ようやく晴れたが、ただでは済まないのが今回の会場。海が近いせいか、幟旗と看板掲出禁止になる程の風で、もーん父さんも立っているのがやっと。お出かけ用のテングロンハットはかぶってられないほどの強風。しかしお客さんにとって風はお構いなし。人出も最大、ゆるキャラ出現数も最大の一番盛況となった中、ステージPRで「もーん父さん」を売り込んできました。

セントレアの会場に向いて下さった皆様、投票箱に投票して下さった皆様、応援団の方や、もーん父さんに差し入れまでして下さったおなじみ様、パレードと一緒に歩いてくれたゆあちゃんと、そしてご家族の皆様!多くの方が応援に会場まで駆けつけてくれ、嬉しいサプライズもぞくぞくと訪れ、この喜びを力に変えて、心が折れるほどの悪天候の中でも、博物館と身延町PRを明るくしっかり行うことができました。皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

グランプリは終わりましたが、もーん父さんは博物館と町のPR活動をこれからもますます頑張って参りますので、引き続き応援宜しくお願い申し上げます。



26年9月～11月の博物館活動報告

もーん父さん出勤簿

7月15日のデビュー以来、もーん父さんは、あっちこっちに大忙し。7月からの活動記録をご紹介します。博物館事業での登場はもちろん、町内外いろんなところに出発していま

す。突如の出現もあるもーん父さん。各イベントでの状況や詳細をお伝えしたいところですが、紙面の関係上、今回は10月から12月までの3か月間の活動記録を一覧でご覧ください。

日付	活動内容	日付	活動内容
10月01日	下山小学校	11月01日～03日	あいちセントレア
10月03日	博物館内写真撮影会・お出迎え&お見送り	11月09日	富士川まつり(利根川公園)→セルバ身延店→下部ホテル
10月04日	下部小学校・久那土保育所・西嶋保育所・原保育所	11月14日	博物館内写真撮影会・お出迎え&お見送り
10月09日	大河内小学校	11月15日	下部ホテル
10月10日	博物館正面玄関前→YBS本社地下スタジオ	11月28日	博物館内写真撮影会・お出迎え&お見送り
10月11日	セルバ身延店前	11月29日	博物館内写真撮影会・お出迎え&お見送り
10月17日	久那土小学校玄関前→クラフトパーク→博物館	11月30日	博物館内写真撮影会・お出迎え&お見送り
10月20日	身延小学校玄関前	12月01日	博物館内写真撮影会・お出迎え&お見送り
10月24日	原小学校→大野山保育園→下山立正保育園	12月06日	博物館内写真撮影会・お出迎え&お見送り
10月26日	下部ホテル	12月07日	セルバみのぶ→クラフトパーク

坑道調査ロボット工作教室

9月27日(土)

この日、坑道測量調査の権威・松江高専の久間英樹先生のご指導で、坑道調査ロボット工作教室が開催されました。大人も子供も工作を楽しみ、モノづくりの楽しさを知ってもらえる機会となりました。

久間先生は、約2時間の中で、モノづくりの楽しさはもちろん、これからの未来を担う子供たちに知ってほしいことや学んでほしいことを、モノを作ることを通してユーモアたっぷりにお話ししながら解説してくださり、体験に参加してくれた子供たちは、真剣な表情でドライバーを使いネジやナットを締め、ロボットを組み立てていきました。

先生は「ロボットは頑丈なように思うかもしれませんが、実は必ず壊れます。ちゃんとメンテナンスをしてあげる必要があります。その際にどこが悪いのかどこがいいのかを判断できる知識と技量が必要ですが、それはすぐに身のつくものではなく、こうした体験を通して理解できるものなのです。エンジニアというのはそうやって育っていくのです」とお

話されました。

先生のお話には「モノを大切にすることや「自分で工夫して作ることに挑戦する」という、人間にとって基本的なことで、かつ忘れてはいけない技術者魂というものが、其処此処に織り交ぜられており、そういった意味でも子供たちにとっては新鮮で楽しい教室になったようです。

親御さんや子供たちからは「難しかったけど、やさしく教えてくれたので良かったです。」

「すごく難しかったけど、すごく勉強になって面白かったです。ありがとうございます」という感想をいただきました。



麓金山遺跡見学会

11月8日(土)

11月8日、麓金山の見学会を開催いたしました。総合調査の頃から関わりが深い富士麓金山遺跡見学会は実に7年ぶりとなりますが、現在、東京農業大学の地域講座の中でも、連続講座として、調査研究や地域住民との観光資源の活用を模索している遺跡でもあり、その際の講師に小松学芸員が継続的に迎えられているところでもあります。麓金山は毛無山の尾根を挟んだ東側の静岡側にあり、今年の8月には遺跡図作成への第1歩を歩みだしました。

その新しいデータを織り込みつつ、麓金山と密接に関わってきた地元やそれをつなぐ「みち」の歴史について、地域環境をご専門としている木村悦^{よしゆき}先生にお話しいただき、遺跡は小松学芸員が解説するという、前回とは内容の異なる見学会を開催しました。心配していた天候も雨にはならず、予定の定員を上回っての開催となりました。

開会式後、木村先生が地籍図を用いて、方角と道がどのように関連付けられ作成されたか、縄張り図はどうやって作成するのか、登山道へ歩みを進めながら周辺の地理や歴史を現場で解説いただきながら、1時間ほどお話いただきました。登山道に向かう途中にある竹川家では、金山衆末裔という象徴のひとつの芝棟門が葺き替え工事中で、工事中とはいえ、

立派な門のたたずまいを、参加者はカメラに納めていました。

登山道からは小松学芸員の解説と先導で、片道約1時間半の登山。比丘尼の滝、炭焼き窯の跡、中心テラスから大名屋敷テラスへと、休憩を入れながら現場に到着。見学会全体を終えて、参加者の皆さんからは「初めて参加しましたが、金山があった時代の道をご説明頂き、昔の面影が今も色濃く残っている事を知りました。木村先生にはコンパスと方眼紙と鉛筆で出来る図面の書き方を教えていただいたりして、勉強になりました。」という声や「初めて参加しましたが、大人の探検隊のようで楽しかったです。また、是非参加したいと思います。」などたくさん感想をいただきましたが、歴史を学びながら、紅葉や山の景色とともに、登山の楽しさと歴史の深さを改めて感じていただけたようです。



甲州富士川まつり

11月9日(日)

見学会の翌日9日、富士川町政施行5周年記念「甲州富士川まつり」のゆるキャラの一人に、もーん父さんが招待され、富士川町・利根川河川敷グラウンド周辺特設会場で、皆さんと触れ合ってきました。

参加キャラは全部で5町9キャラ、富士川町(桜袖波)、韮崎市(ニーラ)、中央市(とまチュウ)、市川三郷町(市川三郷レンジャー3人)、身延町(もーん父さん)、飛び入り参加でヴァンフォーレ甲府(ヴァン君とフォーレちゃん)が集まりました。

イベント初めのうちは何とか天候ももっていましたが、昼前から雨天となり、子供との握手会やふれあいコーナーや甲州弁体操など、屋外で行うはずだったゆるキャライベントが隣接の体育館(児童館)で行なうことになり、会場を訪れた



9キャラ大集合!中でも自由な市川三郷レンジャー!



意外に機敏なもーん父さん。軽快なラジオ体操を披露しました



とまチュウさんとチュウ〜♡

湯之奥・内山金山遺跡調査

9月26日(金)

当館で毎年継続的に独自に行っている内山と茅小屋両金山遺跡ですが、今年の調査では、また新しい発見をしてしまいました。国道52号線から毛無山を眺めると、大きなガレ場が見えますが、そこが内山金山のある場所で象徴ともいえる「大ガレ」。このガレの始まりの山頂付近に坑道を発見したのです。具体的には“ガレ”を登りに登った標高1,530m付近、傾斜は45度を超える場所。遠くから眺めるだけではわかりませんが、足や手を軽くかけただけで簡単に崩れて、さらに直径1mを超えるような大きな石がゴロゴロ落ちていきますので非常に危険です。

この日は工作教室の前日で、久間先生が是非内山金山の坑道測量をしたいと申し出てくださり、ご同行いただきました。登り始めること4時間半でようやく目的に到着。さっそく坑道測量開始。久間先生には内山の坑道データをしっかりと取っていただきました。とはいえ、限られた時間の中で先生からしてみると完璧にデータ全てを取れたというわけではないため、先生は早くも次回のチャレンジ宣言!そして「世

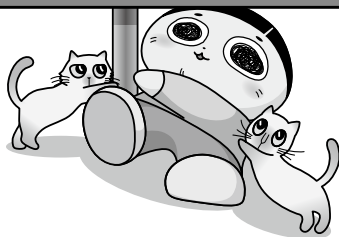
界で2番目くらいの高い標高にある坑道ですね」と冗談めいておっしゃっていましたが、確かにそれくらい大変な所にある坑道です。

今まで関係者の誰もが現場を確認したわけではありませんでしたから、「大ガレは掘り跡が大きく崩れたもの」という確証がありませんでしたが、今回の調査で、「露天掘り」から「坑道掘り」まで展開していたこの場所が、何らかの影響で大きく崩れたものが今の内山の「大ガレ」である、と言えるだけの証拠を確認できたわけです。

さて、この斜度が写真から伝わるでしょうか。本当に一歩踏み出せば石がごろごろ転がり、帰ってきたスタッフはあざだらけという始末。しかし、それだけの苦勞で確認した歴史の重要性、湯之奥金山の鉦山史における位置づけを、この内山調査を通して、今後もっとも伝えていく必要があります。その使命はこの金山博物館が担っているのですが、少しずつ歴史が紐解かれていく楽しみを皆さんと共有できるよう、またこのページでも随時ご報告して参ります。



博物館事業のお知らせ



「誰でも参加できる気軽な 発表会」がコンセプト！ 第3回「金山遺跡・ 砂金研究フォーラム」の お知らせ

- 期 日：平成27年1月24日(土) 午後1時30分～午後5時まで
■場 所：博物館映像シアター（博物館2階） ■参加費：500円（資料代として）
■主 催：博物館応援団Au会 ■共 催：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

スケジュール（予定※発表時間は20分+質疑応答5分）

- 13時～ 開会式
13時15分～ ①特別発表（30分）「3Dレーダー測量による毛無山の未知なる坑道」
久間英樹（島根県松江工業専門学校教授）
13時55分～ ②「庄内黄金山の所在をめぐって～その②～」 佐藤卓生（山形）
14時20分～ ③「長野県諏訪周辺の産金地」 宮坂隆志（長野県）
14時45分～ ④「西上州における武田の金山開発について」 春山 崇（愛知県）
15時10分～ ——15分休憩——
15時25分～ ⑤「宮城県石巻市網地島の金山調査」 鈴木卓也（宮城県）
15時50分～ ⑥「福井県大野諸金山に関する研究」 犬伏弘樹（福井県）
16時15分～ ⑦「相模国（神奈川県）の産金記録」 広瀬義朗（神奈川県）
16時40分～ 全体質疑応答（15分）
16時55分～ 閉会式・総評、フォーラム終了（17時）

今回で3回目となる「博物館応援団Au会」の皆さんが企画開催する、研究発表会「金山遺跡・砂金研究フォーラム」。お待ちしております！1月24日（土）に開催いたします。

昨年から引き続き積み重ねてきた金山研究の進展発表と、金山博物館を拠点にフィールドワークを展開している皆さんの経験や体験、疑問点などをテーマに発表いたします。

タイトル、発表順番や演題など、詳細については確定し次第、博物館ホームページでもお知らせいたします。表題のとおり、各自の研究成果や情報を真面目に発信しつつ「誰もが気軽に参加できる発表会」がコンセプト。堅苦しく考えずに映画を見るような気分でおいでください。

参加お申込み・問い合わせは、湯之奥金山博物館内・湯之奥金山博物館応援団事務局（0556-36-0015）まで。

12月14日(日) 投票日は錫キーホルダー作りも体験していきませんか？

夏には、インターンシップ研修と、砂金掘り大会選手として活躍した地元・峡南高校の皆さん。湯之奥金山博物館と山梨県立峡南高校では、体験研修を通して生徒たちの経験値や知識を豊かにする地元の官学連携事業として、様々なイベントを企画開催してきております。

来る12月14日は、簡単に誰でも作れる錫キーホルダー作成体験（1個につき100円）も開催。同日、選挙で投票会場になる当館ですが、投票においでになった皆様、是非作ってってください。もちろんお子様でも簡単にできます。先生はもちろん、講師役になる学生の皆さんも丁寧に教えてくれます。その場でお申し出いただければ15分ほどで作成、お持ち帰りできますので、皆様お気軽に体験してってください。

- 体験時間：平成26年12月14日(日) 10:00～14:00まで
■場 所：博物館エントランス

そして！

【五味 篤 先生著『銀嶺のアンデス』 購入希望受付いたします。】

当館主催事業の講演会や見学会でも講師を務めていただくなど関わりの深い五味 篤先生が、この度「銀嶺のアンデス」を出版されました。藤村紫朗、前田正名、小野金六、佐竹作太郎といった山梨近代史には欠かせない著名な山梨県人が日秘鉱業会社に出資し、山梨に深く関係した内容です。また、日本とペルーの最初の共同事業であった上に、投資対象が資源事業であったという点が興味深いところでもあります。時代は近代ですが、是非ひとりでも多くの方々にこの史実に関心を持って頂きたい、五味先生にお願いし、特別に頒布許可をいただいたものです。



三井串木野鉱山社長
五味 篤さん

【内容紹介】

「三井金属は、このほど、グループ会社・三井金属串木野鉱山（鹿児島県）の五味篤社長による著書『銀嶺のアンデス—高橋是清のペルー—鉱山投資の足跡—』が、ペルーで上梓されたと発表した。明治維新から間もない1889年、日本で最初の海外大型投資となったペルー—鉱山投資を、日本近代史に名を残す高橋是清が率いた歴史をまとめた。

五味社長は鉱山技師としてペルーに駐在した折、高橋是清が日本人坑夫を連れて標高4,600メートルのカラワクラ鉱山に登った史実を知り、好奇心に駆られて物語の追跡調査を始めたという。ペルーと日本で膨大な資料を収集し、投資決定の背景から、現場での苦難、高品位鉱に恵まれず撤退に至る経緯、事後処理の苦心などを、丹念にまとめた。

首都リマ市の博物館で10月に行われた出版披露会には、駐ペルー日本大使、日本ペルー経済委員長、ペルー外務省投資担当官など120人が出席。ペルーでもあまり知られていない史実として注目を集めている。』『日刊産業新聞 2014年11月19日（水）版』より本文抜粋

五味先生は「ペルー勤務時代に高橋是清という日本近代史に残る偉人が遠くペルーにまで渡航し、日本人坑夫を連れてアンデス山中の鉱山へ登山したことを知り、無性にその雄大な物語の足跡を追跡したくなり調査を始めた。」と語られています。



仕様はA4 サイズ、221 ページ、資料・写真約190点掲載、日本語・スペイン語併記。

価格：@3,400円+郵送料360円です。（1月下旬発送予定）

※日本国内出版ではありませんので、冊数に限りがあります。ご希望の方はお早めに。

購入ご希望の方は、当館まで、メール・FAX・お電話・窓口いずれでも結構ですので、（住所・氏名・電話番号、希望冊数）をご連絡のうえ、お申込みください。

お申込みいただいた方には、**五味先生ご本人から直接ご発送いただきます**ので、同梱の請求書にしたがって、代金のお支払いをお願いいたします。

申込み期間：『館だより70号』がお手元に届いてから平成27年1月16日（金）まで。

■日 時：平成27年2月14日（土） 10:30～14:00
錫プレート（2枚組）作り体験 開催！

■定 員：10人まで（先着順・定員になり次第締め切ります）

■参加費：500円（材料費として）

■対 象：小学生～一般（小さいお子様は保護者の方が同伴してください）

■場 所：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館多目的ホール

六角形と円形の錫プレートができるように用意しておりますので、好みの型に、クラフトパンチで抜いた好きな形の紙を貼り、自分だけのデザインを仕上げます。その型に熱した錫を流し込み、しばらく待って冷やして固めると、その貼り付けた模様が浮き出て、素敵なプレートが出来上がり。完成品は小物入れや小皿にも使えますよ。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

博物館オリジナル

リアル謎解きゲーム「怪盗18面相からの挑戦状」再演決定！

- 期 日：平成27年2月21日(土)
平成27年3月21日(土・祝) 両日とも午後1時30分～午後3時30分
- 場 所：博物館多目的ホール（博物館1階）
- 参加費：大人900円(高校生以上) 小人700円(小学生～中学生)
- 定 員：各回とも30名まで(要事前申し込み) ※当日のみ利用できる“砂金採り体験チケット”付

自分がストーリーの主人公になって、隠されている幾つもの謎やパズルを解いていき、制限時間の中でその答えに近づいていく体験型エンターテイメント。「リアル脱出ゲーム」の湯之奥金山博物館版の2作品目！

開館記念イベントとして平成26年4月29日(日)に第1回目を開催し、多くの皆様のご参加をいただいた、18面相シリーズの成功者は“ゼロ”！ということで、満を持して2月・3月の2回開催いたします。日程は上記のとおりです。第1回目に参加された方は、家族やお友達に勤めてあげてください。体もなまりやすいこの季節、頭を使って柔軟になりましょう！！この謎を解くのは自分だ！という方、挑戦をお待ちしております。

注 意 事 項

- ・要予約制。必ず事前申込みをなさってください。
- ・5～6人程度のグループで挑戦するゲームです。グループが人数に満たない場合は、事務局でグループ編成させていただきます。お申し込みいただいたグループはバラバラにしませんのでご安心ください。
- ・参加されるグループの代表者様がお申込みされる場合、グループ全員の氏名、年齢(学年)、そして代表者様のご住所・電話番号をお伝えください。申し込み後に、人数変更があった場合は、必ず博物館までお知らせください。その他不明な点がございましたら、博物館までお気軽にお問い合わせください。参加申し込み・お問い合わせは湯之奥金山博物館(0556-36-0015)まで。

編 集 後 記

この時期に必ず使う「あっという間」とか「早いもので」とかの単語たち。たまには違う表現をしたいものだと思いつつも、なかなか違う言葉が出てこない。だって、本当にあっという間で早いんですもの。毎年毎年思うことではありますが、今年のやり残しをできるだけ減らし、新年を迎えたいものです。

さて、次の『館だより』は3月発行予定ですから、次号が出るまでは、表紙がお正月バージョンのもーん父さんなんですよ。3月までお正月の格好をしているのもどうかなあと思いつつ、皆様にもーん父さんの晴れ着姿をご披露いたしました。そんな編集の悩みもつづやきつづ…。今号は、年度内に予定されているイベント情報も掲載しています。参加し忘れた！なんてことがないようにしてくださいね。なお、年末年始休館期間中は、すべてのお問い合わせ対応をお休みさせていただきますので、よろしく願いいたします。

ということで、2015年もどうぞ多くの皆様に当館へおいでいただけますよう祈りを込めて。

冬時間(4月まで)の開館時間：午前9時～午後5時迄(受付は午後4時30分迄)

休 館 日：毎週水曜日(12月28日から翌年1月1日までの5日間は年末年始休館期間です。)

※2月11日(水)祝日開館、翌12日(木)振替休館

博物館だより

第70号 平成26年12月12日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp